

## 令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	43	学校名	静岡県立焼津中央高等学校	校長名	遠山 一郎
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	<p>・基礎学力の確実な定着を図るとともに、資質・能力の育成を念頭に置いた授業改善に取り組み、進路実現を可能とする学力を育成する。</p>	<p>・基礎学力が定着する。</p> <p>・学習支援サービスの有効活用により、生徒が自身の学習状況の振り返りと改善ができ、教員は指導に生かす。</p> <p>・思考力を見取る評価問題を作成した教員が80%以上。</p> <p>・新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善ができた教員100%。</p> <p>・学びの基礎診断、模擬試験等の結果の共有と分析を生かし、年間4回の面談実施により具体的指導が徹底される。</p>	<p>・小テスト合格率80%以上を達成した（国語）</p> <p>・「わかりやすい」と答えた生徒80%以上を達成した（数学）</p> <p>・英語4技能をバランスよく学習させ、各種検定の合格率は目標を上回った（英語）</p> <p>・主要教科の模試平均偏差値は50を超えており基礎学力は定着している。</p> <p>・75.9%の達成率であった。（生徒の資質・能力を見取る評価試験及び課題を実施し、観点別評価を適切に行ったと回答した教員） （参考）・授業における学習評価の振り返り方法を工夫した教員92% （教務課アンケート）</p> <p>・82.8%の達成率であった。 （参考）・シラバスを意識して授業や評価を行った教員88% （教務課アンケート）</p> <p>・達成された。分析結果に基づき、学習習慣の見直しを意識させる面談を行い、模擬試験の偏差値の上昇や生徒の進路意識の向上につながった。</p>	B	<p>・入学時より家庭学習時間の少なさが見られ、改善は見られるもののまだまだ十分ではない（1年部）</p> <p>・Classiを利用した学習時間管理を行っているが、HRごとに差がある。（1年部）</p> <p>・来年度に向けて、上位と下位の格差を埋めつつ、中間層を伸ばす取組を考えたい。 （2年部）</p> <p>・観点別評価が全学年で行われる来年度は達成率が上がると思われる。</p> <p>・新学習指導要領に対応する教育課程は概ね完成した。（教務課）</p> <p>各学年とも国語、英語、数学で模試分析を行い、職員会議で報告した。（進路課）</p>

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現のためにICTを効果的に活用している教員80%以上。</li> <li>・ICTを活用した授業や1人1台端末の利用で、学びの質が高まり深い学びにつながったと答える生徒80%以上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT活用に積極的に取り組んだ教員72.4%</li> <li>・左記を「研究した」教員62.1%</li> <li>・左記を「実践できた」教員55.2%</li> <li>(参考)・ALを意識した教員100%</li> <li>(教務課アンケート)</li> <li>・端末を有効に活用できた生徒51.5%</li> <li>・主体的に学ぶ姿勢が身についた生徒80.3%</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修や授業見学で、ICTや1人1台端末の活用につなげるきっかけとなったが、今後も活用事例の紹介や授業見学を通して、その有効活用を促進していきたい。(研修課)</li> <li>・GoogleやClassi、スタディサプリ、ClassPad、百問繚乱等、多くのツール・コンテンツを利用することで、生徒が個人端末を活用するようにはなったが、授業への活用は不十分であった。(情報課)</li> </ul>
イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校則及び社会規範を遵守する意識を育てる。</li> <li>・基本的な生活習慣の確立と心身の健康管理を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場に応じた挨拶と対話ができる生徒100%。</li> <li>・不注意遅刻者が年間20人以内、交通事故10件以内。</li> <li>・一時不停止・並進違反が20件以内。</li> <li>・服装の乱れ等で再指導を受ける生徒0%。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できたと答えた生徒は93.9%であった。</li> <li>・不注意遅刻年間20人</li> <li>・交通事故件数11件。</li> <li>・イエローカードは29件(一時不停止18件、並進11件)。</li> <li>・再指導者0人</li> <li>・制服の着こなし等がきちんとしていたと答えた生徒94%。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き呼びかけて、コミュニケーションの第一歩として習慣づける。</li> <li>・交通委員を中心とした早朝街頭指導を引き続き実施する。</li> <li>・高校生として良識ある行動がとれるように継続して指導をしていく。(生徒課)</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・心臓病、貧血等の健康診断有所見者受診率100%。</li> <li>・緊急時には職員がマニュアルにより適切な対応ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受診率91%であった。</li> <li>・年度当初に、既往症のある生徒を周知し準備した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に100%を目指す。</li> <li>・特にエピペンおよび熱中症対策についてのセミナーを行い、全職員が対応できるようにした。(保健課)</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な助言により、生徒との信頼関係が深まる。</li> <li>・組織による対応が可能となり、該当生徒及び担任等への支援が充実する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困難を抱える生徒、配慮・支援を要する生徒と、のべ30人以上面談。特別支援委員会を28回実施し、担任、学年部、カウンセラー、外部機関との連携を促進させるなど組織的な対応ができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議等での職員間の情報共有、共通理解だけでなく、希望する生徒たちに「カウンセリング入門講座」を実施し、特別支援や教育相談に対する正しい認識を広めた。(保健課)</li> </ul>

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校生徒が生徒会に参画し、生徒会活動を活性化する。</li> <li>・学校行事や部活動により、積極性・主体性を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全生徒が委員会等の活動や地域行事等に参加し、自己有用感が高まった生徒80%以上。</li> <li>・全生徒の技術や意欲が向上し、自己肯定感が高まった生徒80%以上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事等に積極的に参加している生徒92.6%、自己有用感が高まった生徒が69.3%。</li> <li>・部活動に積極的に参加している生徒76.8%、自己肯定感が高まった生徒70.9%。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動では、全国や東海大会出場（弓道、レスリング、放送、相撲、スキー）、多くの部活が県大会出場を果たした。</li> <li>・部活動や委員会への積極的な参加を促せるような環境づくりに取り組んでいく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アカデミックハイスクール事業による中高大連携事業の推進</li> <li>・探究活動の活性化</li> <li>・中央セミナーⅡ（グローバル教育）、修学旅行等を通じてグローバルな視点と思考、英語4技能対応力を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験・実習に参加した生徒の満足度80%以上。</li> <li>・授業に参加した中学生の満足度70%以上。</li> <li>・中学生に教えたことで実験・実習の成果が生かせたと答える生徒80%以上。</li> <li>・探究活動を通じて自分の課題解決力が高まったと答える生徒70%以上。</li> <li>・リアルアクションを実行した生徒100%</li> <li>・探究活動を通して、SDGsや大学の研究に関して学び、地域や社会の問題に関心を高め、進路希望決定や志望理由書の作成に生かすことができる。</li> <li>・研修後の生徒アンケートの満足度90%以上。</li> <li>・研修に参加して、英語活用能力が向上したと答える生徒80%以上。</li> <li>・民間検定試験等での実績向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加高校生のべ118名満足した生徒95%</li> <li>・参加中学生のべ92名満足した生徒100%</li> <li>・100%であった。</li> <li>・68.2%概ね達成できた</li> <li>・100%（1・2年生）</li> <li>・3年生で特に推薦入試を受験した生徒は、探究活動の成果を志願理由書に反映させることができた。</li> <li>・修学旅行での満足度は97%以上であった。</li> <li>・ブリティッシュヒルズ研修の満足度は94%であった。</li> <li>・英語活用能力が向上した生徒は84%であった。（英語科調査）</li> <li>・英検2級以上に30名以上合格した。</li> <li>・GTECでは聞く・読む力が向上したという結果が得られた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・焼津、藤枝、島田の各市教育委員会に協力をいただき、3市の全中学に案内を出した結果参加中学生は増加した。大学生のべ62名が参加し、合計272名が参加する学びの場を提供することができた。（スパイラル委員会）</li> <li>・総合的な探究の時間に関しては、昨年度と同様に、学年部の協力の下、SDGs探究活動につなげる取り組みを行った。</li> <li>「第4回高校生が競うEnergy Pitch！（エネルギー・ピッチ）」で最優秀賞、「第21回AITサイエンス大賞」で第2位の優秀賞を受賞した。（探究）</li> <li>・修学旅行では平和学習とともに留学生との交流（ロゲイニング）を取り入れた。（2年部）</li> <li>・ブリティッシュヒルズ研修後に500文字以上のエッセイを多数応募し、学校奨励賞を受賞した。（英語科）</li> </ul>

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
エ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スパイラルアッププログラムにより個々の能力・適性を見出し、主体的で探究的な姿勢を育みながら、生徒一人ひとりの進路実現を図る。</li> <li>・教育改革、新大学入学試験等への対応を深化・充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通テスト5教科7科目受験者を共通テスト受験者の70%以上、かつ国公立大学受験者を学年70%以上。</li> <li>・国公立大合格数150人以上。</li> <li>・難関大合格数(旧帝・ブロック等)20人以上。</li> <li>・各スパイラルアップセミナー参加生徒の満足度80%以上</li> <li>・教員の教育改革、大学入学試験等への理解が深まり、進路指導に生かすことができる。</li> <li>・希望者対象の各種研修会、研究会に10人以上参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5教科7科目受験者は83.9%であった</li> <li>・国公立大受験者は76.7%であった。</li> <li>・国公立大合格者180人</li> <li>・難関大合格者 国公立 13人 私立 44人</li> <li>・満足度は80.4%であった</li> <li>・大学模擬授業は国公立大学8校18分野、私立大学2校2分野と、生徒の進路希望に合わせて行うことができた。その他、静岡大学全学部説明会など大学や企業との連携行事を5回以上行った。参加者はすべて10人以上であった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路保護者会等で国公立大学の魅力を発信することができた。今後も継続して全国の国公立大学の魅力を発信していきたい。</li> <li>・国公立大学の最終的な合格者数は180人となり、後期試験や再募集まで粘り強く親身な指導を続けた。</li> <li>・職業や大学に関しての情報を積極的に発信し、生徒や保護者の進路意識を高めることにつながった。</li> <li>・9月の時点で進路希望未定者の割合は3年生0.3%、2年生2.1%、1年生15.9%であった。様々な取組が、進路意識の向上に好影響を及ぼした。</li> </ul> <p>(進路課)</p>
オ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書習慣の定着と読書量の増加及び読書の質の改善に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書週間等の活動を通して読書への関心を高め、年間3冊以上読む生徒が全体80%以上になる。</li> <li>・ライブラリー(図書委員作成の生徒用広報誌)を年10回以上、新刊図書案内を月1回発行し、貸出数が増加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月と11月に実施し読書への関心が高まった生徒57.2%(取組みが良かった生徒は90%)、年間3冊以上本を読んだ生徒51.2%</li> <li>・月1回確実に発行。</li> <li>・出張図書館を設置。</li> <li>・貸出数平均は3.2冊(前年比-0.5ポイント)</li> <li>・リクエストされた本を全て購入できた。</li> <li>・ビブリオバトルを1月のLHRで実施し、1、2年生全員が参加した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標には届かなかったものの読書週間に本を借りた人が昨年の5%から12.4%に上昇した。読書時間確保の観点からも継続する意義がある。</li> <li>・出張図書館の利用者は1.65%と少ないが、利用者の拡大につながった。気軽に本を手にとれる環境づくりを継続したい。</li> <li>・第2回校内ビブリオバトルに5名が参加し、上位2名が県大会に出場、内1名は決勝に進出した。</li> </ul> <p>(図書課)</p>

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
カ	<ul style="list-style-type: none"> <li>主権者・消費者としての自覚を促し、政治や選挙・消費に関する知識を身につけ、関心を持たせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>政治的教養が高まり、政治や選挙への関心が高まったと感じる生徒が80%以上。</li> <li>消費者としての基本的知識と留意事項等が理解できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高まっていると回答した生徒 50.8%</li> <li>ほとんどの科目の授業において社会的事象に対する思考・判断・表現の機会を設けることで、主権者意識・消費者としての知識の向上に努めることができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は国政選挙や地方選挙が実施されなかったが、より選挙への参加を意識した社会的事象に対する意思表示の機会を設けたい。 (地歴公民科)</li> </ul>
キ	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報活動を充実させ、積極的な情報発信をするとともに、地域から信頼される学校としての体制作りをする。</li> <li>地域との交流を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校ホームページの迅速・正確な更新により、随時、学校の魅力が発信できている。</li> <li>学校ホームページの年間閲覧者数100,000以上。</li> <li>学校説明会に参加した中学生の満足度80%以上。</li> <li>クラウドサービスによる情報提供に満足していると答える保護者70%以上。</li> <li>セミナー参加保護者のアンケート満足度80%以上。</li> <li>電話、窓口対応に対するクレーム0件。</li> <li>地域との交流活動が前年度より30%程度増加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間で約120回程度の更新を行った。</li> <li>閲覧者数は12月までで約86000であった。年間で100,000回達成の見込み。</li> <li>83%であった。</li> <li>86.2%であった。</li> <li>P T A職業講話では10講座11名の講師を招聘、実施後のアンケートで「よかった」と回答99%</li> <li>0件であった。</li> <li>探究活動における「リアルアクション」、サトヤマカイギとの連携による「ギネスチャレンジ」、野球部による「野球教室」、吹奏楽部や合唱部のミニコンサートなど交流活動は大幅に増加した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの記事の作成や更新に学年、分掌などの行事担当などがこれまで以上にかかわる仕組みを構築する必要がある。</li> <li>10月の学校公開には900人を超える中学生と保護者が来校した。説明会の内容も工夫し、高い満足度を得られた。(教務課)</li> <li>新年度から情報支援システムをClassiからスタディサプリに変更するため、課題を洗い出し、対応を検討する。(情報課)</li> <li>P T A職業講話は、受講した1年生にとって自己の職業観を深める機会となった。今後も生徒が希望する職種を中心とした講師をより多く招聘したい。(総務課)</li> <li>静岡ドリームプロジェクトに採択され、焼津市とコラボレーションし、「ギネスチャレンジ」を実現させ、見事認定された。 (スパイラル委員会)</li> </ul>

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ク	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理能力を高めるとともに地域の安全と防災に貢献する。</li> <li>コンプライアンス遵守の意識の確実な向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害発生の際、教職員及び生徒が速やかに的確な減災対応をとることができ、負傷者を0名とする。</li> <li>地域防災訓練への年1回以上の参加率90%以上。</li> <li>不祥事の発生0件。</li> <li>職員の交通事故0件。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の防災訓練や避難訓練、防災に関する集計などにおいて、積極的に防災委員を動かし、意識を高く持たせ活性化に努めた。</li> <li>中止となった地域があったが、65%が年一回以上防災訓練に参加した。</li> <li>不祥事の発生0件</li> <li>職員の交通事故0件であった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議議題や研修に組み込んでもらうなどして、教職員の防災意識の向上を推進する。</li> <li>地域防災訓練が実施され始めた。各生徒が自身の地域における役割を確認するような取り組みを考える。 (総務課)</li> <li>月1回のコンプライアンス研修を厳格に行った。職員同士のグループワークにより意識向上に繋がった。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員、生徒を支援する校内研修等の充実と改善を研究、実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1人1台端末やICTを活用した授業・学習指導について研究した教員100%、実践した教員80%以上。</li> <li>授業評価アンケートの結果を授業改善に生かすことができた教員80%以上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究した教員93.1%</li> <li>実践した教員72.4%</li> <li>授業改善に取り組んだ教員82.8%</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研修や授業見学で、ICTや1人1台端末の活用につなげるきっかけとなったが、今後も活用事例の紹介や授業見学を通して、その有効活用を促進していきたい。</li> <li>8割以上の教員が授業改善に取り組んでいるが、教員同士の授業見学の参加率等を向上させたい (研修課)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>働き方改革に向けて業務改善や円滑化に係る具体的措置の検討と実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務の削減又は改善について検討した分掌学年100%。</li> <li>長期休業中の定時出勤80%以上。</li> <li>超過勤務月100時間以上の職員0%。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検討した分掌100%</li> <li>達成された。</li> <li>月100時間以上の超過勤務が1回以上あった職員は19.6%</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務の削減について意識することができた。総務課では地区会の廃止、PTA総会資料のクラウド化などを検討した。</li> <li>1月より完全退勤時刻を設けた結果、業務を終える時間を意識する教員が増えた。</li> <li>時間外勤務80時間以上の月が1月以上あった教員の数も例年並みであった。</li> </ul>

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ケ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心・安全な施設・設備および生徒の教育環境整備の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室の照度、CO<sub>2</sub>、騒音の検査を年に2回実施。</li> <li>・年間のゴミの排出量900kg以下。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮設校舎で、9月と12月に左記の3検査を実施した。</li> <li>・12月末現在で868kg。仮設校舎引っ越しに伴い、例年と異なり7・8月に大量のゴミ処理が発生したにもかかわらず、私物ゴミ持ち帰りの徹底、教室内ゴミ箱撤去継続により、減量化を図ることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮設校舎の照度が低いことが判明したため、照明器具を交換した。</li> <li>・ごみの分別・持ち帰りに対する意識向上活動を継続し、生徒保健委員・美化委員を中心にさらに呼びかけを徹底していく。 (保健課)</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設等の不具合による事故0件。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0件であった</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種設備の劣化や故障、施工中の雨漏り、工事車両の交通事故等、幾つかの課題が発生したが、予算確保や工事執行管理の改善に努め、安心・安全な施設設備と教育環境整備の充実に一定の成果を残すことができた。(事務)</li> </ul>